



# 特集 子ども環境学習 [環境について学ぶための取り組み]

エコ・ファーストの約束 2

2014年11月に、愛知県・名古屋市で「ESDに関するユネスコ世界会議」が開催されます。  
 ESD (Education for Sustainable Development) とは、「持続可能な開発のための教育」「持続発展教育」と訳されます。  
 ESDは、一人ひとりが世界の人々や世代、環境との関係性の中で生きていることを認識し、行動を変革するための教育です。  
 ユニーは、ESDの考え方を取り入れた環境学習に取り組んでいます。



## ESD (持続可能な開発のための教育) とは

地球の温暖化、資源の浪費と枯渇、生態系サービスの劣化など、私達人間が生きるための基盤である地球環境が持続不可能な状況になりつつあります。また、世界中の人が私達日本人と同じ生活をすると、地球2.3個分の食糧や資源が必要だと言われています。このような状況であることを意識せずに食糧や資源を使い続ければ、未来の子ども達は生きていくことが困難になるかもしれません。

私たちは応援します

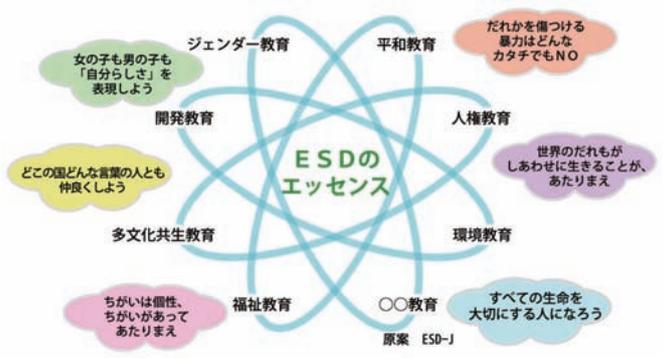


### ●ESDの歩み

- 1992年**  
 国連環境開発会議 (ブラジル/リオ・デ・ジャネイロ) にて、持続可能な開発のための教育 (ESD) の重要性をつたった「アジェンダ21」を採択
- 2002年**  
 持続可能な開発に関する世界首脳会議 (南アフリカ/ヨハネスブルグサミット) にて、日本の提案による「ESDの10年」が実施計画に盛り込まれる。第57回国連総会にて、ユネスコを主導機関として「国連ESDの10年」(2005～2014)を採択
- 2005年**  
 「国連ESDの10年」スタート
- 2014年**  
 「持続発展教育 (ESD) に関するユネスコ世界会議」(日本/愛知県・名古屋市、岡山市)

だれもが幸せに生きることのできる社会、つまり持続可能な社会を構築するためには、今と未来に想いをはせ、地球の限りある資源を大切に使う暮らしや社会、そして一人ひとりの行動を変えていかないとけません。そのための学びあいがESD、持続可能な社会づくりのための教育です。

ESDは国際社会の中でその必要性がうたわれ、1992年の「国連環境開発会議」、2002年の「持続可能な開発に関する世界首脳会議」を経て、2005年に「国連持続可能な開発のための教育 (ESD) の10年」キャンペーンとして位置づけられ、世界各国でESDの取り組みを活性化するための期間が設定されました。最終年の2014年に愛知県名古屋市で開催される「持続発展教育 (ESD) に関するユネスコ世界会議」は、その10年間のキャンペーンの成果と今後について協議する重要な国際会議です。このように国際社会、日本社会において、この持続不可能な社会状況を作り直すための人材育成、教育 (ESD) を実施することが重要課題となっています。



### 子ども環境学習のあゆみ

愛・地球博開催

年	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007
環境学習	アピタ桑名店にて初めて実施	1店舗 (アピタ新守山店)	4店舗	5店舗	7店舗	13店舗	14店舗
自然探検隊	トヨタ白川郷自然学校 モンキーサマースクール	 ●エコフレンド認定	 ●白川郷合掌集落の前で	 ●新緑の田植え祭	 ●エコクッキング	 ●農業体験	 ●農業体験
農業体験	JA農業体験	三功					
企業コラボ	東邦ガス 中部電力 ブラザー工業 デンソー						
工場見学	中央化学工場見学 丸富製紙工場見学						
EPOC							

